

科目名	国際コミュニケーション II	科目分類	■専門科目群 □総合科目群		
			総合政策学部	□必修 ■選択	
			学科	□必修 □選択	
英文表記	Global Communication II	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年		
		開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中		
ふりがな	ドナルド ウッド	実務家教員担当科目		修得単位	2単位
担当者名	Donald C. Wood	実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用		
授業のテーマ	「国際コミュニケーション」とは何か、多文化共存と異文化の理解とより円滑な受け入れを実現するには何が必要なのか、実現する事によって日本、秋田、学生個人へのメリットは何か、これらの問題の答えを探る科目である。				
到達目標	受講する事によって、文化の概念をより深く理解し、人間関係、特に異なる文化の人々の間の関係における文化の重要性をよりよく理解することができる。自分とは異なる文化を持つ人とコミュニケーションをとるための準備の第一歩になる。また、使用する教科書は英語と日本語の両方で書かれているため、国際・異文化間コミュニケーションに役立つ英語を身につけられる。				
授業概要	科目の目的は、文化の重要性を知ってもらう事と、世界中の様々な人々とコミュニケーションをとるための準備を支援することである。そのため、「文化」と（国際）コミュニケーションの様々な側面を英語と日本語両方で考慮する。				
授業計画					
第1回	教員と教科書等の紹介・科目の内容、目標、進み方の説明, 文化人類学の立場から考える「文化」(等)				
第2回	教科書（1）: Globalization and the Global Society（グローバル社会って何?）				
第3回	教科書（2）: How Do You Define a Global Citizen?（グローバル人材とはどんな人か）				
第4回	教科書（3）: You Can Become a Global Citizen（あなたもグローバルに活躍できる）				
第5回	教科書（4）: Saying “Yes” or “No” Clearly（断るときは、はっきりと!）				
第6回	教科書（5）: Start Conversations with a Nice Compliment（人をほめることは、とても大事）				
第7回	教科書（6）: Why Can't People Read the Atmosphere?（察してもらうのはムリ）				
第8回	前半のまとめ + 学生発表の説明 + 中間テスト				
第9回	教科書（7）: Don't Be Afraid to Make Mistakes（失敗を糧に立ち上がれ）				
第10回	教科書（8）: Develop the Ability to Express Your Thoughts（自己主張をする）				
第11回	教科書（9）: Prepare for Culture Shock（カルチャーショックに対処するには）				
第12回	教科書（10）: Overcome Communication Gaps in This Way（コミュニケーションギャップはこうすれば?）				
第13回	教科書（11）: Effective Ways to Reduce Stress（ストレスを減らす方法とは）				
第14回	教科書（12）: Have a Positive Way of Thinking（グローバル社会を前向き思考で）				
第15回	Student presentations (学生発表) + まとめ + 定期試験の話・復習など				
第16回	定期試験				
授業時間外の学習	教員は毎週（?）学生に課題を与える。学生は次回までにその課題の答えを（日本語で）作成し、授業中指名されたらその答えを共有する。第15回目に学生発表もある（教員は初日に説明する）。さらに、中間テストと定期試験に向けて事前に勉強することが望まれる。これらについては、毎週教科書の章の最小の2-3ページを事前に読み、質問に答えるように努めることが求められる。				
履修条件 受講のルール	学生は毎回授業の準備をし、授業に出席し、遅刻しないようにし、注意を払い、質問された時にすぐに答えられるようにすることが求められる。				

テキスト	Surviving in a Global World, J. Nakagawa & J. Charlebois, Tokyo: Seibido (2020) 『グローバル社会をどう生きるか』、中川準治、J. Charlebois 著、成美堂（2020 年）
参考文献・資料	教員は教室で説明します。
成績評価の方法	中間テスト：30% ・ 定期試験（期末テスト）：30% ・ 学生発表：20% ・ 毎週の参加：20% ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	基本的に月曜日の午後（教員は説明します）
成績評価基準	秀(100～90 点)、優(89～80 点)、良(79～70 点)、可(69～60 点)、不可(59 点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	教科書は英語で書かれているので授業は英語の能力の向上と自信に繋がると考えますが、この授業は「英語の授業」ではありません。教員は黒板に英語を書くとしても基本的に授業を日本語で行いますので英語に自信があまりない学生も受講できます。